

林業機械は住友建機

進化した作業性、安全性、経済性。オプションも多彩にラインナップ。

作業スピード、操作性、走行性能のさらなる向上。FVM標準装備およびROPS対応キャブによる安全性の徹底。

そして、定評の低燃費性能をさらに磨いた経済性。「林業機械は住友建機」——その自信が、またひとつ深まりました。

主要ベースマシン

SH75X-6A
SH135X-6
SH120LC-6



ローラーハーベスタ仕様



グラブ仕様



ウルトラゼロスロボ仕様



フェラバンチャーザウルスロボ仕様



スイングヤード仕様



スキマックス仕様



ストロークハーベスタ仕様

森友

CONTENTS



齊藤重興業
北海道
SH135X-6
KESLA 25SH ハーベスタ



気仙地方森林組合
岩手県
SH120-5
KESLA 25RHS mkII ハーベスタ



小田原緑化開発株式会社
群馬県
SH135X-6
プロセッサ (イワフジ工業株)



白川町森林組合
岐阜県
SH135X-3B
KESLA 25SH ハーベスタ



丹波市森林組合
兵庫県
SH75X-3B
KESLA 20SH ハーベスタ



山陽商事株式会社
岡山県
SH125X-3
KESLA 560SH ハーベスタ



株式会社宮崎森林発電所
宮崎県
SH120-5
木材カッター仕様

SHINYU BACK NUMBER

森友 vol.06
五島森林組合 / 長崎県
SH135X-3B
四万十町森林組合 / 高知県
SH75X-3B
飛騨高山森林組合 / 岐阜県
SH120-5

森友 vol.05
株式会社グリーン・シャイン / 鳥取県
SH75X-3B
有限会社秋田グリーンサービス / 秋田県
SH75X-3B
つがる森林組合 / 青森県
SH135X-3B

森友 vol.04
山崎木材 / 広島県
SH135-3B
美山町森林組合 / 福井県
SH135X-3B
群馬県森林組合連合会 / 群馬県
SH120LC-5SM
北海道ニッタ / 北海道
SH135X-3B

森友 vol.03
上野物産 / 鹿児島県
SH75X-3B
長浜市伊香森林組合 / 滋賀県
SH135X-3
神子沢林業 / 山梨県
SH120-3
木材商秋田林業 / 徳島県
SH120-5
竹田木材 / 石川県
SH135X-3B
よつばフォレスト / 浅野産業 / 北海道
SH135X-3B

森友 vol.02
溝淵林業 / 高知県
SH75X-3
松阪地区木材協同組合 / 三重県
SH135-3B
秩父広域森林組合 / 埼玉県
SH75X-3B
西垣林業 / 奈良県
SH200LC-5SM
日和田林産 / 岐阜県
SH135X-3
三井物産フォレスト / 北海道
SH120-3

森友 vol.01
有限会社萬造寺林業 / 鹿児島県
SH135X-3
美山村森林組合 / 和歌山県
SH75-3B
三次地方森林組合 / 広島県
SH75X-3
有限会社二和木材 / 岩手県
SH120-3

林業の無限の可能性を信じて

林業現場レポート
北海道からの今をお届けします。



齊藤 雄太 取締役専務

齊藤重興業

住所：北海道中川郡美深町字北町 14
電話：01656-2-1334
設立：昭和48年



高性能林業機械に活路を求めて

美深町にある齊藤重興業は、昭和48年の創業時は土木主体の会社であった。平成10年、取引先の会社が倒産し、その事業と社員を引き継ぐ形で林業に進出することになった。

「当初3年ほどカラマツが全く売れない時期が続きました。タダでもらっても合わないくらいでした。当然他社は手をつけません。ただ自分の事業の覚悟として、人が手をつけないもの、そこに自分たちの活路を見出そう。そのためには高性能機械を入れて生産性を上げることしかないと考えました。」齊藤専務は当時を思い出しながら言葉を続けた。

「機械導入以前は、手仕事で冬場に天然林の伐採をしていました。一本一本スコップで2mほど積もっている雪を掘り、チェーンソーで伐倒し、枝を払い、玉切をしてと。一本の木が高く売れたからそんな仕事が出来たんです。」しかし、平成19年に道庁が天然林の

伐採を中止し、道有林のトドマツの人工林の伐採が主流になると単価の下落は進み、その状況に対処するため高性能林業機械の導入による生産性の向上がますます重要な課題となっていく。現在、キャリアを改造したフォワーダ5台、ブルドーザ5台、ショベル5台と社員数より多い林業重機導入の成果は生産量にしっかりと反映されている。

「私は今まで、あれもこれも出来るという色々な機能を持つ機械は、結局何も出来ない機械だという認識を持っていました。今回導入したSH135X-6ストローク式ハーベスタは違います。枝払いの機能が、高く太くてしっかりしている枝も簡単にやっつけるので私の中ではかなりの高評価です。」

他メーカーにはないですね。それと住友さんの強みは営業の人が来てオペレータの話聞いて、それが順次製品に反映されていくところですね。現場仕事を理解しておられる齊藤専務の高評価は素直にうれしい。

バイオマスへの期待と取組み

バイオマス事業参入時は近隣にバイオマスボイラーの設備を持つ施設がなく、家畜の敷料にしか用途がなかった。

最近ではボイラー設備も増え、燃料チップの需要も増加し、家畜敷料を求めている家畜農家とチップの取り合いになってきているという。そのため上川総合振興局北部森林室と上川北部森づくり協同組合と美深町の三者でバイオマス事業に関して安定的に原料を供給する協定が結ばれたようだ。

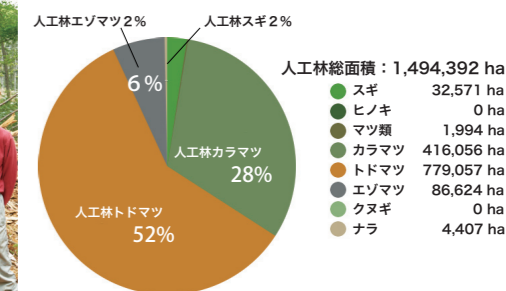
また、未利用材の利用などを山林所有者の道庁に対して、民間から効率性を提案して仕事をする提案型の協定販売というシステムも平成25年度から開始したという。「林業は裾野が広いので、植林にはじまり森林整備、素材の生産、それを消費する建築だとかバイオマスとか、その多様性が無限の可能性を含んでいるようで楽しいですね。私には将来は美深の基幹産業は林業だといえる町にしたいという思いがあります。」齊藤専務の熱い思いが伝わってくる。

●レポート 旭川支店 廣島良昭



左から福富さん 川崎さん 齊藤専務 荒田さん 伊藤さん

北海道の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。(平成24年3月31日現在)
引用元：林野庁 HP <http://www.rinyo.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>

SH120-5 木材グラブ (イワフジ工業株)



復興への道を林業機械で切り開く

林業現場レポート
岩手県からの今をお届けします。



爪木澤 光毅 代表理事組合長

気仙地方森林組合

住所：岩手県気仙郡住田町世田米字川向99-1
電話：0192-46-2621
設立：平成12年



住田町役場



左から、佐藤さん、細川さん、中館さん、館脇参事、八重樫さん

林業機械で復興に貢献

平成12年に大船渡市、三陸町、住田町の森林組合が合併して気仙地方森林組合は発足した。

組合員は、正組合員数3,185名、準組合員347名、合計3,532名、職員23名で構成されている。

管理区域は前述の2町1市で47,300ha。そのほとんどが人工林で、樹種は52%をスギが占めている。地域には10万㎡を消費する製材所が4か所あり、主にスギ材を建築用材として加工している。

合併以前、住田町は育林主体で機械化が遅かった。対して大船渡市は公有林が少なく民有林主体であったが、民有林の仕事は低コストで、林業機械の導

入によって効率化を進める必要があり、多く保有していた。ただ当時大船渡市で保有していた機械は、旧型、小型で伐倒もできない機種だった。組合の館脇参事からお話いただいた。

「それまで、あまり馴染みのなかった住友の林業機械のパンフレットを見た時、機械の性能の違いが一目瞭然とわかりました。

導入したSH120-5 KESLAハーベスタを実際使用すると、測尺の精度や枝払いの作業性能の高さは、パンフレットに記

載された数字以上に感じ、非常に驚きました。林業機械というよりロボットに近いですね。林業体験などで来た子どもたちも大喜びします。」後日組合からプロメンテのご契約も追加発注いただけた。

以前の取材で爪木澤組合長から大震災のこと、その後の復興に関するお話を伺う機会に恵まれた。

「三陸町も大船渡市も津波で甚大な被害を受けました。組合の三陸支所も津波で全壊しましたが、林業用の重機はすべて山にあり無傷でした。

グラップルを使い、津波後の瓦礫処理をして道路を確保したいと思っていま

したが、なかなか役所から要請が来ず、何もできずにいました。3~4日してやっと連絡があり、その後2か月あまり、建設業者が機械を集めて仕事ができるようになるまで、瓦礫撤去の作業に従事しました。他にも復興のお手伝いは色々させていただきました。

昨年度で終了しましたが、高台移転のための復興道作りで森林の先行伐採の作業にも参加しました。」また、館脇参事からは「陸前高田市の広田湾にはカキの養殖筏がたくさんあったのですが、それも津波ですべて失われました。

カキ筏は末口8cm、元口で16cm、長さ10.5mの長尺のスギ材を格子状に並べて作ります。すべての養殖筏を100%木材で作って復旧しました。」とのお話を伺った。

森が海を育てる

組合の本所がある住田町に『森林・林業日本一の町づくり』という大きな看板が立っていて、そのことを館脇参事にお聞きした。「住田町では、川上から川下まですべての業務を責任を持って管理、経営する。日本一の取り組みを行うという意味です。組合の理念として、地域環境に配慮しながら、持続可能な森林経営を行うということがあります。そのため伐採した山は、再造林して資源の再生を行っています。住田町に源流があり、陸前高田や気仙がその河口になります。

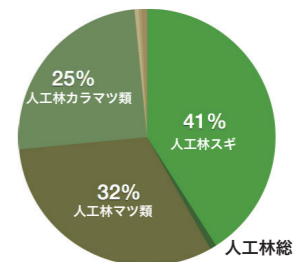
住田の山を手入れしないと海が育たないのです。住田の森が漁業を支えているのです。」

レポート 盛岡支店 長沼亮

SH120-5 KESLA 25RHS mkII ハーベスタ



岩手県の樹種別
計画対象森林面積割



人工林総面積：495,223 ha

スギ	202,871 ha
ヒノキ	3,996 ha
マツ類	157,038 ha
カラマツ	123,317 ha
トドマツ	188 ha
エゾマツ	4 ha
クヌギ	78 ha
ナラ	2,559 ha

林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源実況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである(平成24年3月31日現在の状況)
引用元：林野庁 HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>



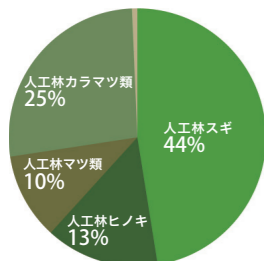
小田原 茂 代表取締役会長

小田原緑化開発株式会社

住所：群馬県沼田市町田町694-1
電話：0278-22-2356
設立：平成10年



群馬県の樹種別
計画対象森林面積割合



人工林総面積：178,179 ha

- スギ 78,894 ha
- ヒノキ 23,746 ha
- マツ類 18,017 ha
- カラマツ 44,391 ha
- トドマツ 0 ha
- エゾマツ 0 ha
- クヌギ 75 ha
- ナラ 1,085 ha

林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである(平成24年3月31日現在の状況)
引用元：林野庁 HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/f24/4.htm>

林業現場レポート 群馬県からの今をお届けします。

自然に誠実に向き合う

平成10年、小田原緑化開発(株)は、群馬県北部に位置する沼田市で設立された。沼田市は、周囲を深い森に囲まれており江戸期に両国橋の改修にケヤキ材の供出を命じられるほど、古くから木材の集積地として有名な土地柄であった。

現在では近隣の森は国有林が広い面積を占め、同社も国有林の伐採工事、開発事業に伴う伐採工事、土木工事、チップ製造、解体工事などを主な業務として発展してきた。平成20年には産廃部門を分離独立し(株)オダワラとして法人を設立した。その後バイオマス発電所の参画企業として、(株)バイオマス群馬に株式の出資をするとともに、発電所に自社の中間処理施設でチップ化したものを燃料供給している。創業者で代表取締役の小田原会長にお話をいただいた。

「このあたりは、山ばかりで産業といえば林業だけ、あとは薪炭と養蚕くらいかな。林業といっても私が子どもの頃は、山形から木挽きさんに来てもらって、切った木も馬ソリで運ぶようなことをしていましたね。若い頃も、10tクレーンで木をワイヤ吊りしたり、チェーンソーで枝払いも玉切りもすべて人の手です、その程度の機械化でした。けれど、ある日知人の会社でバックホーやグラブルを見て考え方が変わりました。これからはこの機械が仕事では絶対に必要になってくる。そう確信しました。ただ会社を作ったばかりの頃は、お金も余りなくて住友さんと縁があってお付き合いが始まったわけですが、導入した住友さんの機械は、思っていたよりずっと良い性能で、けっこうよく働いてくれました。」

同社の小田原専務に現在使っていたいでいる機械についてお話を聞いた。「住友さんのベースマシンに関しては、非常に満足しています。他社に比較して登坂力は断然良いし、旧型の時は居住性に少し問題があったけど、今回導入したSH135X-6 PSではその部分が解消されていたので、対応の早さに逆に驚きました。」今では18台の重機を保有されている。小田原専務もそうだが、小田原緑化開発の社員の方は皆さん若い。お聞きすると会長を除くと最高齢が38歳。最年少で22歳。平均年齢は30歳。高齢化に悩む林業界では驚異的である。その理由を会長にお伺いした。

「今社員は緑化と産廃あわせて30名ほど在籍しています。地元に戻りたくてUターンしてきた社員もいます。東京の大学を出たのに林業がしたくてIターンしてきた社員もいます。もちろん地元の出身で、沼田に生まれ沼田で育った社員もいます。弊社に入社したきっかけは人それぞれですが、入社後最低三年はみっちり林業を仕込みます。その後は会社の方針として、誠実に仕事に向き合って、一生懸命に頑張っている。私が社員に望むのはそれだけです。頑張っていること、その喜びを知ってもらう。その頑張った成果に対して会社はちゃんと従業員に還元する。そして社会にも還元する。また、心構えとして、林業は自然に直接手を触れる仕事だから、その自然に誠実に向き合い、自然を壊さないように考え工夫し、次世代に快適で豊かな自然を手渡すことが使命だと思っています。それだけしか言っていないけど、みんな若いし、機動力があって、本当に真面目によく働いてくれますよ。」

●レポート 群馬支店 藤塚正利



SH135X-3B プロセッサ (KETO)



豊かな自然を
未来につなぐ

左から
七五三木さん、
阿部(隆)さん、
小田原専務、
阿部(裕)さん、
小田原健専務、
小田原(進)さん、
森下さん

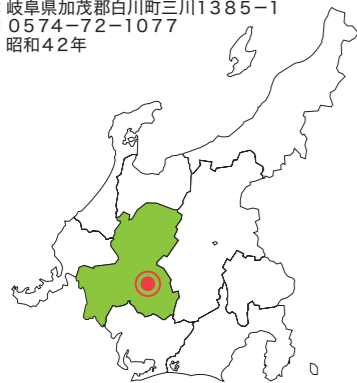
林業現場レポート
岐阜県からの今をお届けします。



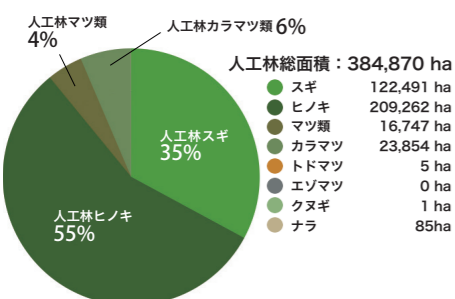
今井 良博 代表理事組合長

白川町森林組合

住所：岐阜県加茂郡白川町三川1385-1
電話：0574-72-1077
設立：昭和42年



岐阜県の樹種別
計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである(平成24年3月31日現在の状況)
引用元：林野庁HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>

SH135X-3B KESLA 25SH ハーベスタ



森林を守ることは
国を守ること

109年生のヒノキを囲んで
左から 福田さん、加藤さん、
馬場さん、藤井さん、伊東さん、沢田係長

森は21世紀の宝物

白川町森林組合の在る加茂郡白川町周辺は、古くから“東濃ひのき”の名で知られる日本でも有数のヒノキの産地である。森林組合の管理する森は、広さ約21,000ha、町の総面積の88%に及び、またその70%をヒノキが占めている。

組合員数は、2,031名、職員数7名で構成されている。長い歴史ある組合だが、高性能林業機械の導入などは比較的最近のことである。

そのきっかけは、平成18年に林野庁より収益間伐と素材生産を開始することへの指導があったことによる。それから10年、切り捨て間伐から収益間伐への切り替え、高性能林業機械の導入、路網整備など着実な歩みを続けて来た。それも白川町の職員、及び町長として32年間背負ってこられた今井代表理事が、7年前に組合長に就任されたことが大きく影響している。

内政的には機械化への積極的な取り組み、将来を見据えた若い人材の確保など、また外交的には県内外の行政機関や森林組合との交流など組合長の行動力には枚挙にいとまがない。

一例をあげるとすると今回弊誌『森友』に同時掲載されている気仙地方森林組合様のある岩手県住田町とも、東北大震災後に木造仮設住宅の協力を通じて深い交流があるという。澤田業務係長からもさらに、『森友』VOL.4に掲載されている福井県の美山町森林組合様が、白川町を見学されていたり、ハーベスタ選定時には、『森友』VOL.2に掲載された同じ岐阜県の日和田林産様に機械の評価を聞きに行かれ、SH135X-3B KESLA25SHに決定した

との話をお聞きした。森友も7年目に入り取材が続いていると色々なことで繋がるものだと、『継続は力なり』を実感した。

また、今回の取材で白川町のオペレーター氏が枝払いにユニークな方法を探っていたので紹介する。右下の写真にあるように、穂先の材をチルトアップし、自重で木が落ちるのを利用して枝払いをしていた。マニュアル外の方法をいろいろと工夫されているのが面白かった。

最後に今井代表理事組合長からお言葉をいただいた。「日本の国土の大半が森であること、つまり森を守ることが国を守ることと直結しているという事実を都会の人は気づいていません。森から多くの恩恵を受けていることを理解していない。

だから税金を林業に投入しようと思わないのでしょうか。花粉症の医療費が2兆円かかるというなら、補助金を出してスギを切ればいい。切ったスギ材を外国のように高速道路の防音壁を作ったり、また未利用材はバイオマスの燃料にしたり、新たな利用方法を見つけて使うことが大切です。

21世紀の宝物は森林資源だと思いません。豊かな森林資源をうまく活用してこそ、豊かな日本になれると思っています。森によって自分たちが生かされていると、毎年三重県漁業協同組合連合会を中心とした漁業関係者の方たちが、木曾川最上流である岐阜県の森林整備活動に訪れています。

今年も白川町に来ていただきました。そのお返しではないのですが、私たち山の人間が、今年三重の海岸の清掃に行く予定です。お互いが感謝の気持ちを持って交流することが、大切なことだと思っています。」

●レポート 東濃営業所 田窪浩二

SH135X-3B KESLA25SH ハーベスタ



林業現場レポート
兵庫県からの今をお届けします。

丹波市森林組合

住所：兵庫県丹波市青垣町佐治 744-1
電話：0795-87-1300
設立：平成16年12月

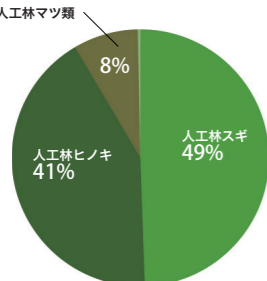


中尾 正文 代表理事組合長



荻野係長

兵庫県の樹種別
計画対象森林面積割合



人工林総面積：240,329 ha

スギ	118,032 ha
ヒノキ	97,848 ha
マツ類	18,902 ha
カラマツ	121 ha
トドマツ	0 ha
エゾマツ	0 ha
クヌギ	583 ha
ナラ	143 ha

林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成24年3月31日現在の状況）
引用元：林野庁 HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>

バイオマスで資源の有効活用

丹波市森林組合は、平成16年12月、近隣5町の森林組合が合併して設立された。組合員数4300名、職員44名で構成されている。

良質のスギ材を産出することから関西電力の電柱の多くをこの地域から供給してきたことで有名である。昨今の林業を取り巻く厳しい環境の中、資源を有効活用するバイオマスについて中尾代表理事組合長に取り組みを語っていただいた。

「バイオマス事業に関しては、丹波市森林組合、丹波市ひかみ森林組合と丹波林産振興センターの三者が共同出資して、『バイオマス丹波』を設立しました。そして、従来山に廃棄していた未利用材が丹波市営の温水プールや温泉での熱源として利用できるようになりました。

また地元のパルプ会社にバイオマス発電の燃料として、原木をつぶしたままのチップをすべて収めています。資源の有効活用ができることはありがたいことです」

森づくりは水づくり

組合設立時より最新の高性能林業機械を導入し、作業の安全性を重視する姿勢は徹底している。

導入いただいたSH75X-3B KESLA 20SHも現場の荻野係長から「枝打ちの能力の高さに驚いています。また、住友の行き届いたサービス体制に満足しています。」とお褒めの言葉をいただ

いている。能力の高い機械を使う無理の無い作業が、現場での安全に繋がっている。

森林整備業務として、作業道の開設や間伐、またその間伐材の搬出など完全な森林整備を目指して活動されているが、特筆すべきは、完全な森林整備のために、完全な森林の地籍調査が必要であるという理念のもと、組合が直営で完成させたことだ。

この取り組みは全国でも三例ほどしかないという。「土地所有者の方の多くは、自分の山がどこに、どれくらいの広さかをあまり理解しておられません。

ただ、航空写真やGPSを使って電子データ化することは、みなさんに喜んでいただいています。そして地籍の確定後、50ha～100ha単位で森林整備計画を作成して、こちらから山を整備させていただくと頼みに行くんです。山や森を整備しないで荒れたままにすると大変です。これは金儲けじゃない。

山を整備することは災害の防止になるし、整備された森には水を涵養する力があります。ここは加古川の最上流、源流です。豊かな森は、同時に水づくりです。

川上に暮らす人間には川下の人に豊かで美しい水を送る使命があると思っています。中尾組合長の言葉には、強い郷土愛と森を守る使命感を持つ男の矜持が感じられた。

●レポート 北近畿支店 岡西哲也



SH75X-3B KESLA 20SH ハーベスタ



SH75X-3 木材グラップル (イワフジ工業株)



SH75X-3B KESLA 20SH ハーベスタ

SH75X-3B KESLA 20SH ハーベスタ

豊かな森づくり、
道づくり、人づくり

林業を通じて 地域に貢献する

SH125X-3 KESLA 560SH ハーベスタ



林業現場レポート 岡山県からの今をお届けします。



前田 多恵子 代表取締役社長

山陽商事株式会社

フォレスト・デザイン事業部

本社所在地：兵庫県伊丹市伊丹3-6-22
津山出張所：岡山県津山市河辺1115-4
電話：0868-26-1036
設立：平成24年



時代は3Kから3Sに

平成24年、山陽商事は、関連企業である前田林業を吸収し、事業継承のためフォレスト・デザイン事業部を立ち上げた。

事業部の主な業務は、津山市周辺での素材生産事業、タワーヤータ等林業機械の輸入販売、林業用安全作業用品の輸入販売などである。

林業を「3K」では無く「3S」『Safe 安全で、Stylish カッコ良く、Strong 力強い』仕事にしたいという思いが事業部のネーミングから感じとれる。事業の健全な発展や、それを支える雇用確保のために、多くの企業が労働環境の改善や機械化の推進などで「3K」の解消に努めている。

高性能林業機械や安全靴の普及で「3K」の「キツイ、キケン」はある程度解消されてきたが「キタナイ」の解消はまだ困難な課題のようだ。しかし、山陽商事の販売するウエアなどの安全用品に一つの答えが有るように思えた。

チェーンソープロテクションシリーズなどは、特化された作業着として高い防護性を備えているとともに配色やスタイルなどのデザイン性が一般的な日本製品と全く違う。

そのためスタイリッシュなウエアを着て働く山陽商事の社員の人達が、とにかくカッコいい。

汗や木屑や泥で汚れていても、まるで外国映画を見ているようで、男らしく美しく感じられる。

ウエアひとつに「3S」すべての要素が詰め込まれた印象を受ける。

3Kの解消をウエアに着目されたのは、女性社長ならではの目線だろうが、同時に前述したように林業機械の輸入販売を手がけられている林業のプロフェッショナルとしての視点を持っておられことを忘れてはならない。

お話を聞いていても、豊富な情報量と林業機械の造詣の深さにはいつも驚かされる。そんな前田社長が、自社林の保育のみであった林業を脱却して、すべての業務を自社でまかなうために機械化を進められた時、プロが選ぶプロの機械として住友のSH125X-3 KESLA560SHやSH75X-3BMGで揃えていただいたことには感謝するばかりだ。

林業の使命

林業家の三代目である前田社長には企業人として、また一人の人間として、自分を幼い頃から育み見守り続けてきた町や森への強い責任感と使命感がある。

「林業をはじめ第一次産業は、地方でしか成立しない、非効率で、都会の人から見れば泥くさい仕事なのでしょうけど、人が生きていくための大切な土台作りの仕事だと思っています。」

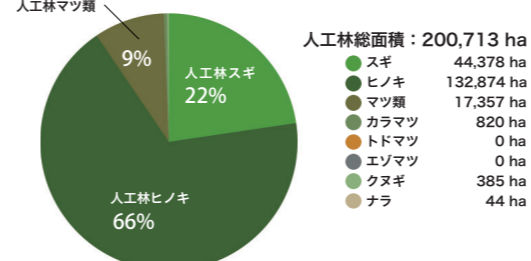
そのため企業は地域社会に安定した雇用を創出し続けることが必要で、そのことで地域に貢献すべきだと思っています。

そして私たち林業に携わるものは、森林という環境を作り、守ることで、人と自然の調和をはかる『環境創造企業』でありたいと思っています。」 ●レポート 岡山支店 黒滝勉



SH75X-3B 木材グラップル (株南星機械)

岡山県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである (平成24年3月31日現在の状況)
引用元：林野庁 HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>



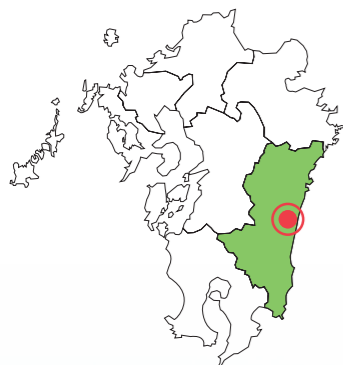
左から青藤さん、森田さん、山本さん、小川さん



山下 壽 代表取締役社長

(株)宮崎森林発電所

住所：宮崎県児湯郡川南町大字川南4591-5
電話：0983-27-2236
設立：平成25年



仕事は、仲良く楽しく

株式会社宮崎森林発電所は、略称FIT、再生可能エネルギー固定価格買取制度に則った売電用途のバイオマス発電所を建設するために平成25年に設立された。

発電所は、今年の3月に竣工し、4月から発電プラントを稼働している。未利用材を熱源として5,700KWの発電能力があり、32円/1KWで20年間の長期契約を九州電力と締結している。

「発電事業は商売として楽です。」発電所の山下社長は、そう話された。「商売で一番労力を使うのは『売る』ことと『売上の回収』です。発電事業はその必要がありません。」

FITで20年間は買い取り先も、金額も決まっているから営業経費を考えなくて済みます。その点は本当に楽です。あとは、燃料になる未利用材をいかに安く手に入れるか、また、いかに効率的に回収してチップ化するか、そのことだけを考えればよいのですから。」あまり楽だとも思えない事業を簡単に楽だと言い切る山下社長の言葉の裏には、隣接する『宮崎バイオマスリサイクル』という日本一の鶏糞発電所の成功が、その下地となっていると思える。

また、この会社にはもう一つの日本一がある。高校時代、空手団体戦で大将として日本一になり、今は総務部で社長を支える姪の鍋島美智了さんの存在だ。

山下社長は、昭和57年に鶏糞の産廃処理などを扱う(有)山下商事という会社を設立された。社長はもともと農家の出身で、現在も30haの路地野菜と年産100万羽の養鶏場を経営しておられる。平成11年家畜の排泄物の適正処理に関する法律が成立し、それに対応するために鶏糞を燃料として発電し、売電することを考案された。発電所の完成まで多くの困難、紆余曲折があったが、平成17年から稼働し、現在では毎日400tの鶏糞が持ち込まれ、それを熱源として11,200KWの電力を発電している。もちろんこれは宮崎県が日本で二番目に鶏の生産量が多いという地域の特性に基づいてこそ可能なことといえる。

前述の(有)山下商事は、今回の森林発電所の開所を見据えて、数年前から林業に業務を拡張している。原木の調達や山の買い入れ等、発電所の円滑な運営のサポートをしている。どちらの発電所も従来産業廃棄物として有料で処分していたものを、逆に有償で買い取って燃料にするという価値の逆転が大量の原料の確保を可能にしている。

今回社長が最初に語られたのは「他の発電所と集積の方法が違います。材を現地に自社で取りに行き、そこでチップ化して持って帰る方法をとっています。」という言

葉だった。そのために自社で3台の移動式チップ機を持っておられる。また、今回導入いただいたSH120-5MG6台のうち3台を現場での集積作業に、3台を発電所でのハンドリング作業に使っていただいている。

社長のお話はいつも論理的で、多くの数字が含まれている。それは多くの実験データや膨大な資料を解析した結果導かれた答えであると感じた。つまり最初に語られた言葉にも『集積に関して色々な方法を試しデータを蓄積して比較検討したけれど、この方法が一番効率的だった。』という意味が含まれていることがわかった。

社長は最後に語られた。「山を買って伐採するだけじゃなく、植林もはじめています。事業を長い目で見ると、そういう仕事をするのが自然かなと思うようになりました。自分の目先だけの利潤を追求するだけじゃだめだと、会社のみんなが、あるいは地域の人がみんな仲良く楽しく仕事して、稼いだお金を分けましょう。」と思うわけです。」

●レポート 宮崎支店 伊藤 雅文

バイオマス発電所外観全景 (住友重機工業株製)

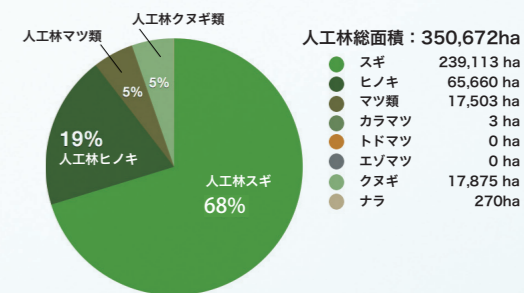


SH120-5 グラップル仕様



姪の鍋島さんと2ショット

宮崎県の樹種別計画対象
森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得るを目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである (平成24年3月31日現在の状況)

引用元：林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>



バイオマス発電所
日本一を目指して

SH120-5 グラップル仕様

SH120-5 木材カッター仕様